

Scramble Zone

「KOMI チャート」を使って、
在宅患者の生活過程を整える

金 井 一 薫

看 護 教 育

第 39 卷 第 5 号 別刷

1998年 5 月 25 日 発行

医学書院

「KOMIチャート」を使って、 在宅患者の生活過程を整える

日本社会事業大学教授
金井一薫

はじめに

ナイチンゲールは、観察について『看護覚え書』（現代社）のなかで、次のように述べている。

「よい看護というものは、あらゆる病気に共通するこまごましたこと、およびひとりひとりの病人に固有のこまごましたことを観察すること、ただこの二つだけで成り立っている」¹⁾と。

この文章を受けて、筆者は、看護の眼はいつでも、対象者の①生命過程の質と、②生活過程の特徴の2つの点に注がれるように訓練すべきであると力説してきた²⁾。

①の生命過程の質とは、生命それ自体の状況を指しており、対象者の症状や病状がどのように進行しているのかに関心を持つことである。この課題については、看護学生は患者に常時、大きな関心を注いでおり、様々な症状が引き起こす問題について、解決の糸口を探ろうと努力してきている。

②の生活過程の特徴とは、対象者1人ひとりの個性や感性や生き方に現われる特徴のことで、看護はこの対象者の個別性にそった看護計画を立案できなければならないと教育してきて久しい。

さらに、看護学においては、看護の定義をナイチンゲールの思想に求めてきた歴史も長く、そこでは“生活過程を整えること”が、看護のメインテーマであると伝えてきている。そうすると、看護教育においては、徹底的に対象者の生活過程を観察する訓練と、生活を整えるという技を教えなければならなくなる。

ところで、このテーマはしっかりと個々の学生

たちに届いているのだろうか。あるいは、学生たちは生活過程を整えるということが、どういうことを指すのか、その具体的イメージを、きれいに描けているのだろうか。こう自問自答してみると、いささかの疑問と不安が残るところである。ことに「在宅看護論」の学習では、生活の場にいる「生活者像」に直接接近し、かつその対象者の全体像を的確に、かつ迅速に描けるようにならなければならない。

在宅で療養する人々は、病院で療養する人々とは基本的に異なる存在である。それは端的に言えば、在宅で暮らす人々は自らの意志で自らの生き方を選択している人々であり、そこには限りない個性と限りない生活のバリエーションが存在するということである。したがって、大きな規制と集団管理の中で暮らす病院の患者とは、観察のポイントや接し方を変えていかなければ、看護そのものを展開することはむずかしくなる。そのためには、在宅看護への視点の整理や、在宅に暮らす人々をありのままに理解するための教材の導入が不可欠になってくる。

本文で紹介する「KOMIチャート」は、こうした状況のなかで、対象者の生活過程をアセスメントするには最適な教材になるにちがいない。また同時に、KOMIチャートは在宅ケアを推進していく、すべての職種とも共有できる視点を備えているので、ケアチームアプローチにも有効に活用できるであろう。

本文では、KOMIチャートとは何かについて紹介し、KOMIチャートが持つ特徴と活用の要点について述べることにする。

KOMIチャートとは何か

KOMIチャートは、開発者の名前に因んで名付けた「Kanai Original Modern Instrument」(金井方式)で、正式には「生活過程評価チャート」という。

これは、対象者の生活上のテーマに援助者の眼と関心を注ぐときの道具であり、そこから対象者が持つ生活上の問題を解決していくための糸口を発見し、ケアプランづくりに役立たせようというものである。

在宅ケアにおける看護の項目の多くは、対象者の自立に向けてなされる生活援助行為である。そこでこの生活援助行為を、どのように専門的にとらえてその後のケアプランに結びつけていくか、ここが最も大切なポイントになってくる。KOMIチャートは、看護が必要な対象者の「生活過程」(暮らし全般)に目を向け、一目でその人のその時の生活状況が読み取れるようになってきている。したがって、看護者はKOMIチャートをチェックするだけで、その日その時の対象者把握が簡単にできるばかりか、今どのような看護を提供すればその人の生活過程が向上するかを考えることができるのである。

筆者が考案した「生活過程アセスメント項目」には大項目が15ある。これはそのどの項目が欠けても、人間は自立した、かつ尊厳ある生活が営めないという基本的なものである。以下にその15項目を示してみる。

- ・第1分野(生命の維持過程に直接影響する分野)
(1)呼吸する／(2)食べる／(3)排泄する／(4)動く／(5)眠る
- ・第2分野(周囲の人々とのかかわりの質に影響する分野)
(6)身体を清潔に保つ／(7)衣服の着脱と清潔／(8)身だしなみを整える／(9)伝える・会話する／(10)性にかかわること
- ・第3分野(社会過程とつながり、その人らしい生活を実現するのに影響する分野)
(11)役割(有用感)を持つ／(12)変化を創り出す／(13)生活における小管理／(14)家計(金銭)を管理する／(15)健康を管理する

この項目が全て自力で営まれたとき、人間は健

康的で尊厳のある生き方が保たれているとみてよいだろう。ここでは15項目を3分野に分類している。第1分野は生命過程に直結した分野であり、この項目が満たされていないと、人間の生命そのものが危機に陥ることになる。第2分野は周囲の人々との交わりに重きをおく分野で、この分野が満たされないとき、直接生命には損傷が及ばないが、生活の変化は極端に狭められ、生活そのものが不活性化してしまう。次の第3分野は社会生活の幅を決定する分野で、生活空間の広がりやその人らしさを表出する分野である。この分野が満たされなければ、人間は生活の楽しみが奪われ、狭い空間に不健康を抱えてじっとこらえて生きなければならなくなる。

看護がめざす行為の方向は、その人にとっての「あたり前の生活過程」の実現にある。しかし、このあたり前の生活はイメージする人によってまちまちなのが現状で、これでは専門家によるケアの実現が阻まれてしまう。そこで、「人間の生活過程」を誰でも同一の視点でイメージできるよう開発したのがKOMIチャートなのである。

KOMIチャートには、15項目の1つひとつにさらに細目が付けられており、細目は全部で150項目に及ぶ。KOMIチャートの特徴と真価はこの150項目の表現にあるが、この内容は今後まだ検討の余地がある。多様な研究を重ねるなかで、さらによりよいものにしていきたいと考えている。

KOMIチャートは、看護界のみならず介護現場でも広範囲で徐々にではあるが使われてきており、その活用の有効性も次々に発表されてきている。まずは原理を理解した上で、教育教材として採用いただければ幸いである。

これまでとはもすれば、このあたり前の生活過程をイメージする時、援助者1人ひとりの価値観や人生観によって左右されがちであった。それでは専門家は育たない。筆者は、援助する人によって左右されない、誰にとっても「あるべき生活の全体像」となる姿を描き、それを共有する道を探ろうと考えているのである。

KOMIチャートの全体像と活用の留意点

KOMIチャートは、援助を必要としている人た

表 I 生活過程アセスメント項目

生活過程	判断項目	
	認識面	行動面
(1)呼吸する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 息苦しさを感じる 2. 匂いを感じる 3. 暑さ・寒さを感じる 4. 空気の汚れを感じる 5. 陽光を気持ちよく感じ、それを取り込む必要がわかる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然に呼吸できる 2. 息苦しい時に訴えることができる 3. 息苦しさに応じて適切な行動がとれる 4. 換気や温度・湿度の調節ができる 5. 陽光を取り込んだり、陽光を浴びることができる
(2)食べる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食物がわかる(異食がない) 2. 食欲を感じる 3. 空腹を感じる時間に自然のリズムがある(食事を摂る時間に一定の間隔がある) 4. 人と交わって食べたいと思う 5. 栄養のバランスや適切な水分量を考えられる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経口的に摂取できる 2. 自力で摂取できる(食べさせてもらわないで食べられる) 3. 適切な量を摂取できる 4. 調理や準備・後片付け(配膳・下膳は除く)ができる 5. 食事のための買物をする事ができる
(3)排泄する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 尿意・便意がわかる a. 尿意 b. 便意 2. 排泄終了がわかる a. 尿 b. 便 3. 現体調(現状)における適切な排泄場所がわかる a. 尿 b. 便 4. 世話されることに羞恥心を持っている(自尊心意識がある) 5. 自分の排泄のリズムや習慣(頻尿や便秘など)を知っていて、不調時への対応を心得ている 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 排泄機能に障害がなく、自然排泄できる(おむつでもよい) a. 尿 b. 便 2. 尿意・便意を表現できる a. 尿意 b. 便意 3. 適切な場所(おむつやベッド上でなく)で排泄できる a. 尿 b. 便 4. 一日の適切な排泄量(回数)がある a. 尿 b. 便 5. 一連の排泄行為が適切にできる(下着を下ろして排泄し、紙で拭いてから下着を上げて身繕いする)
(4)動く	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活動作に不便や痛みや苦痛を少しも感じない(痛みなどによる動作の制限がなく、異常感がまったくない) 2. 自分にとって異常感がまったくない 3. 動きたいという意欲がある 4. 動くために必要な体力が今どれ位あるか知っている 5. 健康維持や回復にとって必要な運動量がわかる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体の一部でも動かすことができる 2. 楽な姿勢や動作が自由にとれる 3. 住まいのなかでは自由に移動することができる 4. 屋外までも自由に移動することができる 5. 行動・動作に目的が見え、自他に危害を加えるようなことがない
(5)眠る	<ol style="list-style-type: none"> 1. 眠さ・疲れを感じる 2. 昼と夜の区別がわかる 3. 眠りに際して不安や恐怖心がない 4. 自分にとって必要な睡眠時間を知っている 5. よく眠れたと感じる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 眠りの準備ができる(着替え・洗面・寝室の準備・明かりの具合・静けさなど) 2. 眠くなって寝られる(薬の力を借りない) 3. 必要な睡眠時間がとれる 4. 時間がきたら起きることができる 5. 睡眠のリズムが整えられ、日常生活を送るために適切な睡眠習慣が身につけている
(6)身体を清潔に保つ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体の不快感(痒み・汗ばみ・脂ばみなど)を感じる 2. 身体細部(爪・目やに・耳あか・鼻毛など)の不潔に気をとめることができる 3. さっぱり感を感じる事ができる 4. 身体を清潔にしようという意欲がある 5. 不衛生(汚れたものや不潔な場所)への観念がある 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体の不快感や爽快感を表現できる 2. 手指を清潔にすることができる 3. 洗髪ができる 4. シャワー浴・入浴ができる 5. 身体細部(爪・目やに・耳あか・鼻毛など)の清潔が保てる
(7)衣服の着脱と清潔	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人前で衣服を着るのは当然と感じる 2. 着替える意欲がある 3. 好みの衣服がわかる 4. 季節(気候)に合った衣服がわかる 5. 衣服の清潔がわかる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 着脱ができる 2. 日々、好みの衣服を選ぶことができる 3. 選ぶ衣服の素材や着る枚数が、体温調整に適している 4. 脱いだものを整理できる 5. 洗濯ができる
(8)身だしなみを整える	<ol style="list-style-type: none"> 1. 髪型や身につけているものを誉められると嬉しいと感じる 2. だらしないこと(シャツが裏表・靴が左右逆・髪がボサボサなど)がどういことかわかる 3. 自分の装いに関心を持っている 4. 装いにおける自分の好みを選択できる(髪型・商品・店など) 5. 時・所・目的に適した身だしなみがわかる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 朝夕の洗面・歯磨き(入歯も含む)ができる 2. だらしないなく、衣服がきちんと着られる 3. 日々の髻剃り・整髪・肌の手入れを怠りなく行なうことができる 4. 理容師・美容師を利用して自己を表出することができる 5. 時・所・目的に適した身だしなみがわかる

生活過程	判断項目	
	認識面	行動面
(9)伝える、 会話する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象を認識できる(視覚・聴覚に障害がないか、あっても認識の手段を備えている) 2. 伝えようという意志がある 3. 相手の言うことがわかる 4. 継続的な会話ができる程度の記憶力がある 5. 人と話すことを拒否する気持ちがなく、自然に会話を運ぼうという意識がある 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 快・不快の表現ができる 2. 意味のあるサインを出すことができる 3. 質問にハイ・イエで応えることができる 4. 短い会話ができる(手話・点字・ワープロを含む) 5. 口頭で普通に(常識的な)会話のやりとりができる
(10)性にかかわること	<ol style="list-style-type: none"> 1. 見知らぬ人の前で裸になることに羞恥心を感じる 2. 自分が男性あるいは女性であることを自覚している 3. 異性に対して自然な関心を抱くことができる 4. 異性と話すことなどに極端な拒否感情を持っていない 5. 性に対して自制心を働かせることができる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人前で恥ずかしさを表現できる 2. “男性らしく”“女性らしく”振る舞うことができる(言葉遣い・着衣・髪型など常識の範囲で) 3. 生活空間に両性の存在がある(家庭内だけでなく暮らし全体で) 4. 生理的欲求に振り回されず、トラブルを起こさない 5. 性に関して成熟した見解を持ち、大人として振る舞うことができる
(11)役割 (有 用感) を持つ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分は誰かがわかる 2. 生い立ちを理解している(自分史を認識できる) 3. 人とのかかわりを求めている 4. 相手の状況や立場などを理解できる(思いやりがある) 5. 自分でできること、しなければならぬことは自分でしようとする意識がある(自立精神がある) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 寂しさ・孤独感などを表現できる(人を求める何らかのサインを出すことができる) 2. 家族や親族とのつながりがあり、家族や親族に支えられている 3. 周囲に特定の(特に行き来のある)友人・知人を持っている 4. 自分にとっての安定した(心安まる)居場所を持っている 5. 社会的活動に少しでも参与できる(労働や学習や遊びの仲間に入り居場所を広げることができる)
(12)変化を創り出す	<ol style="list-style-type: none"> 1. 変化のないことによる退屈や辛さを認識できる 2. 変化を与えられれば、愉しむことができる 3. 今の生活に少しでも変化をつける意欲がある 4. 自分にとって今したいこと、実現したい事柄を思い描くことができる 5. どんな変化であれば今の自分の体力や状況に適しているかがわかる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 長期にわたって1つの部屋に閉じ込められたような生活をしてはしない 2. 変化のないことによる退屈さや辛さを表現することができる 3. 居宅(施設)内においては、進んで体力に見合った変化を創り出すことができる 4. 変化を創り出す場を家屋周囲(近くの公園やお店など)に広げることができる 5. 変化を創り出す場を広範囲の地域に広げることができる
(13)生活における小管理	<ol style="list-style-type: none"> 1. 居室の不潔や乱れがわかる 2. 日常生活品で不足しているものがわかる 3. 段取りよく物事を進めていく力がある(その日の過ごし方が頭の中に描けるなど) 4. 日々直面するさまざまな問題を解決していく判断力がある(手紙の処理・不用品の処理・不用品の補充など) 5. 生活におけるバランス感覚を持っている(ある事柄だけに熱中して、長期間掃除や洗濯をやらない人はバランス感覚に欠けている) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 居住場所に対する不快の感情を表現できる 2. 居室を清潔に保つことができる(掃除・整理・整頓) 3. 日常生活で不足しているものを補充できる 4. 安全管理ができる(戸締まり・鍵・火の始末など) 5. 暮らしを快適に営むために創意・工夫する力を持ち、生活上に自分らしさを表現できる(好みの食器・壁掛・衣類の整理整頓の工夫など)
(14)家計 (金銭)を 管理する	<ol style="list-style-type: none"> 1. お金の意味がわかる 2. 収支の計算がわかる 3. 収入のルートとその額を知っている 4. 自分が現在使える金額がわかる 5. 収支にバランスのとれた金銭感覚がある 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現時点で毎月の生活費が確保されている(生活保護費を含む) 2. お金を持って適切な判断で物を買うことができる 3. 自分のお金の出し入れとサイフの管理ができる 4. 1か月の生活費(小遣い)の配分ができる 5. 計画的にお金を使うことができる(将来の見通しをもっている)
(15)健康を管理する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心身の異常・違和感を感じるができる 2. 異常解決のために必要な情報を入手しようという気持ちがある 3. 他者や専門家への相談の必要性を判断できる 4. 回復や健康への意欲がある 5. 心身の乱れに対して、具体的な生活の仕方が理解できる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心身の不調を訴えることができる 2. 解決にとって必要な情報を入手できる手段を持っている 3. 服薬でき、かつその管理もできる 4. 不調時には受診し、治療を受けることができる 5. 必要な療法やリハビリなどに、積極的に取り組むことができる

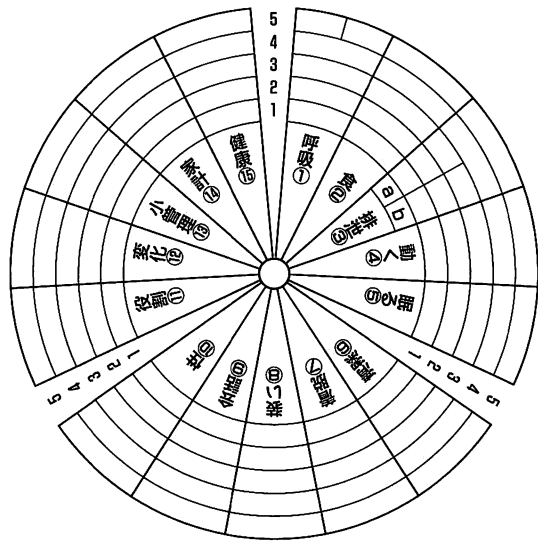
図 I

氏名:	対象者の状況:
年齢: 歳 (男・女)	
居住場所(病棟名):	
疾患名:	

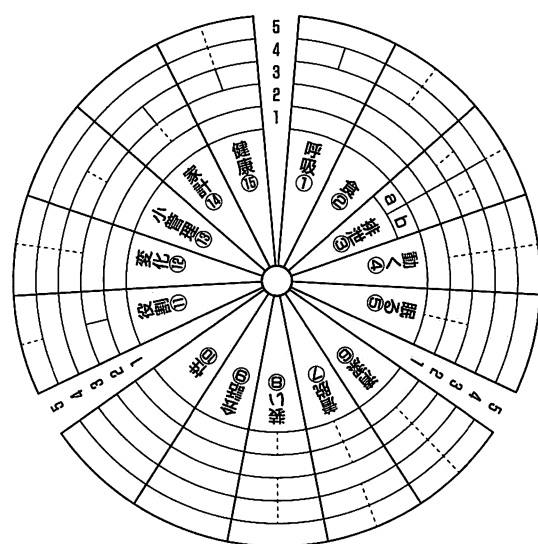
判定: 年月日現在	判定者:
このチャートからわかること:	具体的援助計画:

- 本人がわかる・できる
- 本人はわからない・できない
- ▨ 専門家の援助がはいっている
- ▩ 身内の援助でまかなわれている
- ▧ 判別できない(要観察事項)

KOMIチャート
(生活過程評価チャート)
(認識面)



KOMIチャート
(生活過程評価チャート)
(行動面)



ちの生活過程やその認識の、どの部分がどのように欠けているかを判断し、欠けたところを補うというケアを行なうと同時に、その人の“持てる力”や“できる力”または“健康な力”に関心を注ぎ、その力を引き出すようなケアをするように開発されている。つまり、KOMIチャート上でその人の生活過程をチェックすれば、自動的に何が問題なのか、あるいはどんな力を強めたり、伸ばしたりすればよいかを、同時に判断できるように工夫されている。

KOMIチャートは、前述したように15の生活過程評価項目(大項目)から成り立っており、1項目につきそれぞれに対象者の「認識面」と「行動面」を評価する細目が5項目ずつある。このように対象者

の「認識面」に関心を寄せていくところにKOMIチャートの大きな特徴がある。人間は認識と身体とを合わせ持つ動物であり、常に両者のバランスをとりながら日常生活を営んでいるのが常態である。したがって、対象者のその時の行動をアセスメントしていこうとすれば、同時にその時の認識面にも関心を寄せていくことが必要である。両者を比較して見た時、そこに大きな食い違いがなく、認識面・行動面ともにバランスがとれていれば健康度は高いと判断できるのである。






この「認識面」と「行動面」を同時にチェックしてみると、病気の種類や回復度、または身体障害や知的障害など、それぞれに特有の色塗りの分布があることもわかってきた。いずれにしても、対象

者の実態を客観的に把握するには、KOMIチャートは最適な手段であるだろう。







全部で150に及ぶ細目を持つこのKOMIチャートの全体像を、図Iと表Iに示す。

KOMIチャートのチェック手順は、まず表の「生活過程アセスメント項目」一覧表ののっとり、その時々利用者の「認識面」と「行動面」の両面について、5種類のマークを書き込んでいくことから始まる。ただし、「認識面」に関しては3種類(本人がわかる・わからない・判別できない)のみのチェックである。

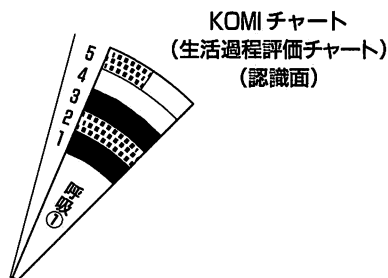
マークは以下のとおりである。KOMIチャートを使用する場合には、必ずこのマークを活用してほしい。



- ・本人がわかる・できる 
- ・本人はわからない・できない 
- ・判別できない(要観察事項) 
- ・専門家の援助が入っている 
- ・身内の援助でまかなわれている 




具体的なマークの仕方を説明する。

まず「生活過程アセスメント項目」に照らし合わせながら、「認識面」に関しては、その日その時の対象者が「わかっている」か「わかっていない」かを判断する。わかっているればのマークを、またわかっていないければのマークを付ける。もしもわかっているかわかっていないかを判断できない時にはのマークにすればよい。KOMIチャートの良さの1つは、この「判別できない」マークが存在することなので、かかと決着をつけようとせず、判定に戸惑う時には遠慮なくマークを活用する。

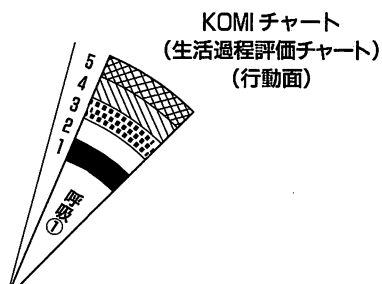
例




「行動面」についても、本人が「自力でできる」項目はマーク、「自力でできない」項目にはマーク。そして「できているのかできていないのか判

別できない」項目はマークになる。さらに「行動面」に関しては、そこに専門家(看護婦やSWやホームヘルパーなど)の援助がすでに入っている場合にはマークを、また家族や身内の援助でまかなわれている項目についてはマークを入れる。具体的には以下である。

例



このようにして150項目がチェックされれば、マークの箇所に援助の手が欲しいことが一目瞭然になることがわかるであろう。

具体的な判断基準やチェックの心得など、詳しくは拙書『KOMIチャート』(現代社)³⁾を参照してほしい。

おわりに

KOMIチャートは、今後の看護教育で、特に在宅看護論の実習においては、有効な教材として活用されていくものと思われる。

実習に出る前に、対象者の見つけ方をKOMIチャートの150項目にしたがって学習し、その眼で対象者の生活を観察するようにすれば、学生個々の生活背景にとらわれることなく、専門家としてのアプローチが短期間で可能になるはずである。

看護とは、対象者の生活過程を健康的に、創造的に作り替えていくところに、その専門性があるのである。生活が丸ごと見える在宅の場において、本当の看護を心ゆくまで提供できる看護婦に育て上げることが、われわれ教育者の任務である。

●引用文献

- 1) F. ナイチンゲール著、湯橋ます他訳：看護覚え書、現代社、p. 187, 1990.
- 2) 金井一薫著、ナイチンゲール看護論・入門、現代社、p.168, 1993.
- 3) 金井一薫編著：KOMIチャート—日常ケアの実践を導く方法論、現代社、1996.

在宅看護論における生活(過程) をとらえる教育の課題

訪問看護実習でのKOMIチャート分析より

日本赤十字武蔵野短期大学 老人・在宅看護学教室 柳原清子

本学では新分野「在宅看護論」の授業科目名を「在宅ケア論」とした。在宅は居宅を意味するのではなく、生活の場としての地域を意味し、ケアは看護ケアのみならず、地域における医療・保健・福祉の包括的ケアを学ぶ教科として命名した。「在宅ケア論」は「在宅看護論」「地域保健学」「福祉保健行政論」から構築され、「在宅看護論」の概念枠組みは「家族看護」「継続看護(ケアマネジメント)」「訪問看護」から成り立たせた¹⁾。

在宅看護の対象者は、単なる療養者(虚弱者)や障害者およびその家族ではなく、生活の場で日常の生活を営む「生活者」である。したがって対象の生活をとらえる教育が重要であることはいくら強調しても言い過ぎることはない。だが、具体的に看護の視点でとらえる生活の中味とは何であろうか、生活をとらえるとは対象の何をみつめることなのだろうか? この疑問への答えを模索する中で、ナイチンゲール看護論をベースにした生活過程アセスメント指標である「KOMIチャート」²⁾を知った。そこで、生活をとらえる教育に有効ではないかと考え本学の訪問看護実習の記録にこのKOMIチャートを使ってみた。

その結果、学習効果の分析の過程で看護学生の学習傾向と特徴が見えてきた。この傾向と特徴は、今後の在宅看護論における生活過程を教授する際の課題として重要と思われる。本稿では訪問看護実習でのKOMIチャート記入状況の分析を基に、在宅看護論における教育の課題を明らかにしたい。

なお、「生活」というのは、自然や他の人間との相

互の働きかけの中で、不断に流動する活動・行為であるから、「生活過程」とよんだ。

研究目的

- 1) 学生は対象者の生活過程をどの程度にとらえているか、また把握が不十分になる箇所はどこか、その把握に関与する因子は何かを明らかにする。
- 2) 生活過程の把握状況から、学生の学習傾向を知る。

研究対象・方法

看護短期大学(3年制)の3年生54名が実習記録として記載した「KOMIチャート」108枚。学生が記載したKOMIチャートをデータ化して数量的に処理分析した。(記録物を分析し結果を公表するにあたって、学生個々の了解を得た)。

研究時期 1996年6月から11月。

分析方法

- 1) 同一の対象者を同時に訪問した2名の学生のKOMIチャートの一致状況を見る(150質問-191回答の1つひとつの項目の一致度を調査する)。一致していれば、その項目は把握されている、と仮定し、不一致は把握不十分と考えた。この根拠は以下の2点である。

① KOMIチャートは、尺度として作成されてはいるが、判断は「できる」「できない」「わから